

## 4 地球環境関係データ

### ■概要

#### (1) 地球温暖化

府における1999(平成11)年度の温室効果ガス排出量は5,823万CO<sub>2</sub>換算トンで、基準年度(1990(平成2)年度、ただし、代替フロン類については1995(平成7)年度)の排出量に比べ0.9%の増加となっています。

また、温室効果ガスの約90%を占める二酸化炭素の1999(平成11)年度の排出量は、全国12億2,500万CO<sub>2</sub>換算トンであり、そのうち府内における排出量は約4.2%にあたる約5,116万CO<sub>2</sub>換算トンとなっています。

なお、府における平成15年度の事務・事業に係る温室効果ガス排出量は376,225.8CO<sub>2</sub>換算トンで、平成14年度に比べ1.5%の減少となっています。

#### (2) エネルギー利用

府内におけるエネルギー消費量(2次エネルギー、ジュール換算)について、1990(平成2)年度からの推移をみると、全体では1990(平成2)年度から1994(平成6)年度まで徐々に増加し、1995(平成7)年度に一端減少した後は概ね横ばいの傾向にありましたが、2002(平成14)年度は8,030億MJジュールと増加しています。府では、新エネルギーの導入促進や省エネルギーの徹底など望ましいエネルギー利用の将来像を示し、その実現に向けた方策を示す「エコエネルギー都市・大阪計画」(平成12年3月策定)に基づき、環境負荷の少ない太陽光発電などの新エネルギーの導入を促進しています。

#### (3) ヒートアイランド現象

ヒートアイランド対策の効果把握のため、芝生地の気温等緩和効果調査、省エネライフの実践によるエネルギー削減効果調査、高反射性塗料による表面温度低下調査等を実施し、予測シミュレーションを行いました。これらの調査結果や府域におけるヒートアイランド現象の現状、その影響等を踏まえ、対策の目標、基本方向、手法、先行的に推進する具体策等を定めた「大阪府ヒートアイランド対策推進計画」を作成しております。

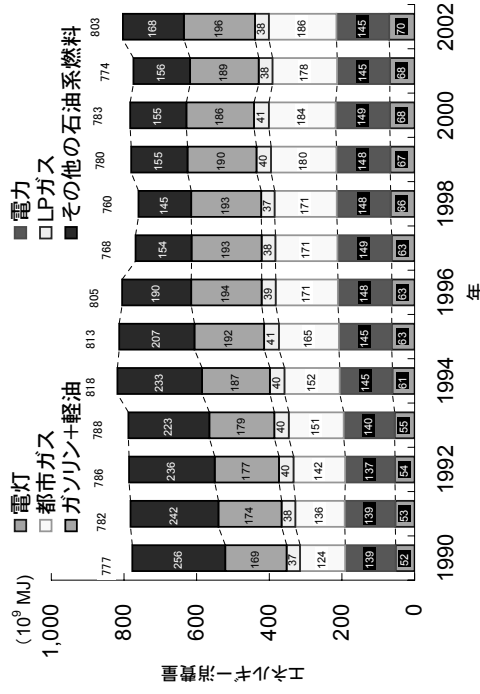
#### (4) 酸性雨

酸性雨(酸性沈着)には、湿性及び乾性沈着の両過程により、土壌、湖沼などの生態系に影響を及ぼします。府では府内市町村と共同して調査を継続実施するとともに、全国的な共同調査や東アジア酸性雨モニタリングネットワーク等に参加・協力しています。これまでの調査結果から酸性雨は、欧米と同レベルで推移しており今後とも注意して観測する必要があると見られます。

## ■地球温暖化関係データ

### 4-1 エネルギー消費量の推移

府内におけるエネルギー消費量(ジュール換算)について、1990年度からの推移をみると、全体としては増加と減少をくり返しており、2002年度は1990年度から3.3%の増加となっています。燃料の種類別では、電灯、都市ガスの伸びが特に大きく、対1990年度比、各々35%、50%の増加となっており、電力についても4.3%の増加となっています。逆に、石油系燃料は、製造部門における燃料転換等により減少傾向であり、1990年度から14%の減少となっています。



### 4-2 府内の新エネルギー等の導入実績 (平成15年度末現在)

種類	府内の導入実績
太陽光発電*	25,383 kW (6,909 台)
風力発電	15.1 kW (9 台)
クリーンエネルギー自動車	11,101 台
廃棄物発電**	180,660 kW (23 施設、21 工場)
廃棄物熱利用**	熱供給 15 施設(12 工場、自家利用 49 施設 (36 工場))
温度差エネルギー	7 か所 (河川水2、海水1、下水処理4)
天然ガスコージェネレーション	約 51 万 kW
燃料電池	4,424 kW

\*太陽光発電には、平成15年度(財)新エネルギー財団への申し込み分を含む。

\*\*は、平成14年度末現在。